

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602728		
法人名	有限会社 ケイテック		
事業所名	グループホーム「仲間館・絆」		
所在地	福岡県久留米市城島町内野322-1		
自己評価作成日	令和4年6月30日	評価結果確定日	令和4年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年7月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

古くから銘酒の産地として酒造業が盛んだった城島町には、所々にその風景(酒造)があり、当ホームの白壁に囲まれた外観も、それをイメージして建てている。玄関に入ってすぐのラウンジでは、どこか懐かしさを感じるような昭和をイメージした空間づくりをしている。また、利用者様にできるだけ家庭に近い環境の中で生活リハビリなど利用者様自身が活発に生活を送っていただけるようなサービスの提供をしている。食事面でも栄養が偏らないようにし、季節の野菜を多く取り入れスタッフ手作りで調理を行い我が家にいるような「食」の楽しさを提供している。(御節料理も手作り)健康な方が普通に暮らすように許す限り、自由に生き生きとした、その人らしい生活が送れるよう心に寄り添い支援しています。

グループホーム「仲間館・絆」は平成18年に開設。銘酒の産地として酒造業が盛んだった城島町には、今も酒蔵がありその風情が感ぜられる。グループホームの白壁に囲まれた外観も酒蔵をイメージして建てられた。ラウンジにはレトロのポスターが飾られ、懐かしく安らげる空間となっている。デイサービスが隣接し、近隣には同法人の有料老人がある。コロナ感染症のため、思うような活動はできていないが、家庭に近い環境のなかで、生活リハビリに力を入れている。食事面では栄養面を考え季節の野菜も多く取り入れ、利用者にも参加してもらい、スタッフの手作りで彩の良い食事を楽しんでいる。地域の一員として助けたり、助けられたりの輪を広げ、自由に生き生きとしたその人らしい生活が送れるように寄り添い支援をしており、今後も期待される事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼすべての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心こそ大切なれ、地域の一人として助けられたり助けたりの輪を広めよう」との理念を掲げ入居者の心に寄り添える介護を目指して努力している。また、理念を解りやすくする為のクレドを皆で作成し(10項目)日めくりにてその日一日の目標を立て理念の実践に取り組んでいる。	理念を念頭に置いて、解りやすくするために職員全員で具体的な行動指針のクレドを作成した。「挨拶」「報・連・相」「スキルアップ」「誠実」「心に寄り添う」などの10項目のクレドを、日めくりにして毎日朝礼にて唱和している。その日一日の目標を立て、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	挨拶はもちろん、時間のある時は立ち止まり世間話など交流を深め、施設の事を知ってもらえるよう心掛けていたがコロナウィルス感染症流行からが中々できていない。	コロナ感染症の中、地域との交流は思うようにできていないが、事業所周りの草取り、缶拾いなどを利用者と共に行っている。事業所のお便り(学習会・会議の内容)を玄関入り口に貼り、取り組みを知らせしている。近隣の方が隣接のデイサービスに救急処置の助けを求めに見えた事もあった。今後も地域の一人として助けられたり助けたりを促して行こうと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のお便り(学習会・会議の内容)を玄関入口に貼っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症流行と水害被害のため(8月~2月)避難先であったため開催できていない。書面での開催を行っている。	コロナ感染症流行と水害被害のため開催はできていない。書面で事業所の活動計画、取り組み状況などを、市、包括、区長、自治会長、家族などに郵送し意見をもらっている。もらった意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前年度は特に水害被害などあり市役所の担当職員には密に連絡を取らせて頂いた。相談や疑問に丁寧に対応していただいている。介護相談員の来訪もあっていたがコロナ感染症のため中止になっている。	運営推進会議の議事録は郵送し、意見をもらっている。水害被害などがあり、市の担当職員とは密に連絡を取り、相談、疑問に対応してもらった。介護保険の申請は城島支所に管理者が持参している。日頃から事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会、会議、カンファレンス時に於いて(3ヵ月に1度は)話し合いをし、職員全員が身体拘束の行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関施錠は行っていない。センサーの使用もない。身体拘束の排除・虐待防止のための介護職のマナー向上等の内部研修を行っている。市が作成した動画研修も行った。学習会、会議、カンファレンスに於いて話し合いを行い、身体拘束、言葉による拘束も理解しており、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館・絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市で行われている研修(今回は動画研修だったので観覧)に参加し、また全体会議を行い職員の理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話すことまではないが会議や研修を通じて勉強はしている。	現在、制度の利用者はいない。会議や研修を通じて勉強は行っている。制度の利用が必要になった時は、市又は社会福祉協議会などに相談する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の漏れがないように努めている。また利用者やご家族の質問にも解りやすく伝わるように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が一番話しやすい職員に意見や要望などを言われることが多いので、管理者報告後職員で話し合い意見交換をし改善や要望に添えるようにしている。必要であればご家族へも連絡・報告している。	利用者の要望は近隣を散歩したり、テラスでおやつを食べる時など、その時々生まれるニーズに対応し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。家族が事業所を訪問した時に、意見、要望を聞き取る。家族には毎月の利用報告・仲間館だよりを送付しており、運営推進会議の内容を書き添えている。要望に沿えるように、連絡・報告を密に行い、それらを運営に反映させている。	家族から、①「仲間館だより」にて毎日の生活の様子を写真付きで報告してもらい、本人がとても満足している様子が見受けられる。②電話連絡もこまめに行ってもらい、コロナ禍の中、訪問ができにくい、とても安心している。などの声が寄せられており、事業所全体で「心に寄り添う」支援が行われている事がうかがわれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議を行い意見や提案を話し合うような時間を設け運営に反映させている。	月1回の全体職員会議・グループホームの会議で意見・提案などを言える環境にある。レクリエーション・催し物に使う品物の提案なども行い、反映させてもらう。一日の自分の目標を業務日誌に書き、自己評価を行う。自己評価についてコメントをもらい、日々の励みにしている。年2回個人面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や学習会での感想や意見、自主勉強を月末までにレポート提出をすると学習手当7千円つくようにしている。個々の努力や実績に応じて、面接を昇給制度にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別を問わないようにしている。個別に質問や相談、悩みに応じて働きやすい職場になるよう取り組んでいる。	職員の年齢は20歳代から40歳代と幅が広い。休憩も1時間あり、場所もある。歌が得意でレクリエーションで發揮したり、イラスト・レイアウトが得意で「仲間だより」の作成に携わったりと、その能力を發揮し生き生きと勤務している。会議・学習会のレポートを提出すると、学習手当がつく。個別に質問や相談、悩みなどにも乗ってもらい、勉強会の機会、シフト交換も考えてもらえ、自己研鑽に励み、資格取得を目指している。	



R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館.絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な職員会議の中で利用者の人権について話し合い、ケアの方針、統一に取り組んでいる。	インターネットから資料を取り出し管理者が研修を行っている。定期的な職員会議の中で利用者の人権について話し合い、ケアの方針、統一に取り組んでいる。本人の希望により、家族への連絡をしたいと申し出があった際は支援をしたり、家族から電話があった時は、本人に代わるなどの支援を行っている。	外部機関などから学習資料やDVDなどを借りてみてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について、職員へ積極的に呼びかけをおこなっているが今はコロナ感染症の流行のためできない。法人内の毎月の職員学習会は行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者協議会には加入している。コロナ感染症流行のためできていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく本人の声を多く聞けるように、聞くように心配りをしている。意思の疎通が困難な方でも不安なこと、求めていること、心の声を聴き、表情等で読み取り信頼関係が築けるように心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞き共感し「その人にとってどうすることが一番いいのか」を一緒に考え信頼関係を築けるように心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小さなことでも聞き逃さず「その人にとって今何が必要なのか」を第一に考えその方に一番いい方法を本人、ご家族と共に考え対応できるように取り組んでいる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がわからない事を教えて頂き、助けられたり助けたりの関係を大切にしている。一緒に喜怒哀楽を共有し、支えあう関係を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近では面会ができないので、月間報告書での報告や電話連絡にて近況報告などを行い、本人主体の介護ができるよう家族の方と一緒に考えている。		

R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館・絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症流行のため面会など控えてもらっている。どうしても場合は窓越しに面会してもらっている。	コロナ感染症流行のため家族訪問も控えてもらっているが、窓越しに会ってもらうこともある。利用者家族が野菜、果物などを持参してくれる。以前は馴染みの美容院に行かれていたが、現在は訪問理美容を利用。今年は1名の方が選挙に行かれた。「仲間館だより」で近況報告及び些細な事もすぐに連絡しており、本人主体の介護に向けて家族と一緒に考えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に寄り添い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩などを取り入れたり、日常生活において、洗濯物たたみ、食器拭き等していただき関わっていただくよう努めている。会話の中にも職員が間に入り関わりを持っていただけるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、退去されてもお見舞いなどに行ったりしている。また亡くなられた利用者のご家族も未だに訪問して下さる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉、表情、顔色、動作などから一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、表情や会話、ご家族の話の中から少しでも多くの情報収集をし、本人の意思に沿うよう支援している。	初回は来訪されたり、管理者が病院などを訪問する。利用者、家族などからこれまでの生活歴、趣味、好きな事、思い、暮らしかたの希望を聞き取り意向の把握に努める。情報は職員間で共有する。意思疎通が困難な利用者に対しては、日々の会話、表情、動作などから思いをくみ取り、家族との話の中からも情報を収集し、本人の意思に沿うように支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過などを職員全員で共有し把握して日常の支援に取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、身体状態、有する力等介護記録に記入し、変化があれば申し送りやカンファレンスで共有し、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見、本人に傾聴したこと、専門職の意見を取り入れ、職員全員でモニタリングやカンファレンスを行い介護計画を作成している。	ケアプランの作成は管理者が行っている。カンファレンスは職員全員で月1回行う。モニタリングは3か月に1回、アセスメントは半年に1回行い、課題、問題点を見つけ、変化を見逃さないように見直しを行う。利用者、家族から聞き取り、医師、看護師などから意見をもらい、担当者会議に反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	

R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館・絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、バイタルチェック表などを詳細に記入し問題点など出てきたときは話し合いを持ち実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の状況の変化などに対し、病院受診など一番把握している職員を配置したり柔軟な対応が出来るように職員で話し合い取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ、必要性が発生していなかったが必要性が生じた場合協力させていただき支援を行います。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に今までのかかりつけ医か当ホームの協力医院での受診を希望されるかを決めて頂き往診時には介護職が付き添い医院及びご本人が安心できるように支援している。	本人及び家族に今までのかかりつけ医か、当事業所の協力医院での受診を希望されるかを決めてもらう。緊急時には家族、主治医などに連絡を取るなどの必要な処置を講じる。協力医は24時間連絡が取れ、訪問看護師との連携がある。他科受診は家族又は職員が対応する。訪問歯科診療もあり、利用している方もいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携訪問看護や介護職とは気軽に相談ができて介護職員も安心して対応ができています。また24時間迅速に相談、助言できる体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時はなるべく多く病院に出向き認知症が進まないように医師及び看護師との話し合いを設け早期退院出来るよう支援している。またご家族とも密に連絡を取り情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医療機関と密に連絡を取りながら、支援の共有化を図っている。利用者が日々より良く暮らせるために、ご家族とも話し合い、本人本位での支援を職員と一体となり話し合っている。状態の変化については家族と密に連絡を取りながら取り組んでいる。	看取りの指針があり、十分に説明を行い同意書を得ている。今年は1名様の看取りを行った。看取りが必要になった時は、家族、医師、管理者、職員を交え、これからの医療、ケアの方針について、本人本位の視点で話し合いを行う。急変時のマニュアルは備えてあり、職員に看取りに対する指導も行っている。	

R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館・絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一通りマニュアルは備えてあり、勉強会も定期的に行っている。利用者の急変や事故発生時にはすぐ管理者に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の水害被害の時の避難は今までの訓練や避難を生かし迅速にできたと思う。8月～2月まで避難先での生活だったため自主避難訓練しか出来ていない。地域への協力、参加を働きかけているが難しい状況である。	今回の水害被害の時の避難は、今までの訓練や避難を生かし迅速にできた。令和3年8月から令和4年2月まで、同法人の有料老人ホーム2階での避難生活であった。備蓄は同系列の有料老人ホームにて整備している。老人ホーム職員の協力もあり、お互いに協力している。地域への協力、参加を今後も働きかけて行く。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけないように言葉かけや介助に注意を払って対応している。	個人情報の保護・人権・接遇マナーなどの内部研修を行っている。日々のかかわりの中で、職員は誇りやプライバシー損ねない言葉かけや対応に注意をしている。個人情報の観点から写真利用について同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方、言語障害の方、性格的に内気な方などに対しても、心を開いて頂けるような声掛けにて自己決定を促すよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の今までの生活を大切にし、無理強いないことなく意向を取り入れ支援している。時間の流れにおいては職員の都合ではなく利用者のペースに合わせていくようにもっと努力していこうと思う。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など自分で選んで頂いたり、散髪の際もカット、カラー、パーマと本人の好みのヘアスタイルにして頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備(皮むき、米とぎ)など出来ることは職員と一緒にして頂いている。食事準備は一緒にしていないが後片付けなどは一緒にして頂いている。	材料の買い物は同系列の有料老人ホームの施設長、当事業所の管理者、職員などが行い、有料老人ホームの台所で調理する。食事の下準備(皮むき・米とぎ)、後片付けなど、できることは利用者と職員と一緒にしている。昼は彩の良い弁当、夕食は小鉢に盛り付ける。おせち料理も手作りで行い、食事を楽しんでもらっている。	



R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館・絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い利用者の状態に応じ、摂取量が確保されているか記録している。また、栄養士にメニューをみてもらい助言など頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き誘導、介助、うがいなど一人ひとりの能力に応じて自分でできる方はなるべく自分でして頂くようにしている。毎食後ではないけど就寝前は必ず全員している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が多い方は、時間毎のトイレ誘導などを行い一人ひとりへの力や排泄パターン、習慣を把握し気持ちよく排泄できるよう支援している。	チェック表にて排泄パターンを把握して、時間を見て誘導することで、パッド交換の回数が減った。声かけ誘導することにより、自分から尿意を訴えることもある。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ、リハビリ体操を行い、身体を動かす働きかけをしている。食事に食物繊維の多い食材を使い、また水分摂取が多くできるよう飲食物の工夫を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水曜日と土曜日は入浴日と決めているが他は希望浴となっているが好まれる方はいない。デイサービスに行かれていた方が多く夕方の入浴は好まれない。午前中からの入浴がほとんどである。	水曜日、土曜日は入浴日となっており、午前中に入浴されるかたがほとんどである。個浴で希望により入浴剤を楽しまれる方もいる。入浴時は皮膚観察を行ったり、コミュニケーションの大事な時間としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はコミュニケーションや生活リハビリを行い、なるべく起きていてもらい、夜間安眠して頂けるように取り組んでいる。昼食後には休憩時間を設けベットに横になられる方もおられる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一部職員は理解できているが、出来ていない職員もいる。全職員が理解できるように努めていきたい。薬の変更がある場合は、都度申し送りなどで確認し周知徹底を図っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が昔されていたこと、得意な事を活かしてグループホーム内でできる事を生活リハビリとして、その方にあった役割を持っていただき日常的に支援している。		



R4.7自己評価及び外部評価結果(仲間館・絆)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症流行のため外出は近所の散歩ぐらいいしか行けていない。	年間行事計画があり、季節の折々に外出をしていたが、コロナ感染症流行のため外出は近隣散歩にて季節の移ろいを感じてもらう。毎朝リハビリ体操を行い、身体を動かす働きかけをしている。誕生会、敬老の日、ひな祭りなど、事業所内で楽しんでいる。ラウンジで好きなお菓子を購入するなど、買い物レクリエーションを行った。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ方はいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族への連絡をしたいと申し出があった際は支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに於いては季節感のあるその月の巨大カレンダーを貼っており生活感も味わって頂けるようなテーブル、ソファー、椅子など配置をしている。	事業所入り口左側には、管理者手作りのお宮の鳥居があり、利用者がお参りをしている。リビングは明るく、季節感のあるその月々の巨大カレンダーを貼っている。南に面した広いベランダからはすもも・桜などが鑑賞でき、ベランダでおやつを食べることもある。畑にはジャガイモ・ゴーヤ・ミニトマト・ピーマン・ナスなどが実り利用者と一緒に収穫する。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやリビングの椅子など、利用者が横になったり、他の方と語り合えるような配置をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し出来る限り使い慣れた家具や使っていたものなどを持ってきていただくようにしている。	カーテン・エアコンなどは部屋に取り付けてある。仏壇・テーブル・タンス・テレビなど使い慣れたものを持参している。南に面したベランダからは明るい日差しが入り、午後の、のどかな時間が流れ、それぞれ居心地よく過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりを把握しわかる力を活かして、自立支援を図るために入居者一人ひとりの日常生活の中で「出来る事、出来る事」について把握し極力手や口を出さずに見守ったり、時には一緒に行うように支援している。		